

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第58号 〔2013年12月号〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第58号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

賛助会員の皆様へ 会員更新のお願い

メソトマンスリー

国内から

今月の一枚

編集後記

次号の予定



## 賛助会員の皆様へ 会員更新のお願い

当会では、賛助会員の更新の時期を年末に揃えさせていただいております。  
会員更新の対象となる方には、今月中旬、カレンダーと共に「会員更新のお願い」の文書をお送りしましたが、重ねてご連絡させていただきます。  
すでにお手続きくださいました皆様には、心より御礼申し上げます。

私たちの活動は皆様の会費とご寄付に支えていただいております。  
今後も現地の保健医療サービスの向上により、ひとりでも多くのビルマ/ミャンマーの人々が心身ともに健康に生活することができますよう、尽力してまいります。

引き続きご支援を賜りたく、ご賛同いただける方は下記の要領にて会員更新の手続きを宜しくお願い申し上げます。

### 更新の対象となる方

平成24年7月～平成25年6月までに  
ご入会および更新してくださいました皆様

- ・会員期間は平成25年12月末をもちまして終了となります。
- ・更新いただける場合は、平成26年1月末までに手続きをお願いいたします。
- ・更新後の会員期間は平成26年12月末までとなります。

※ すでに会員期間が過ぎてしまった皆様におかれましても、新たに賛助会員としてご支援いただけましたら大変有り難く存じます。手続きの方法は同じです。何卒よろしくお願いいたします。

なお、更新を希望されない方につきましては、手続きはご不要です。またご支援いただける機会をお待ちしております。

### 賛助会員 更新手続き（年会費入金）の方法について

<年会費>            一般会員：3,650円/年  
                         学生会員：1,825円/年  
                         法人会員：36,500円/年

◆年会費を下記郵便振込先へお振り込みください。

<振込先口座>

ゆうちょ銀行 店名：〇〇八 店（ゼロゼロハチ店）  
口座名義：メータオ・クリニックシエンノカイ  
口座番号：10000-25770101  
（他行からのお振込みの場合）普通 2577010

◆当会ホームページの画面からクレジットカード決済も可能です。

→「あなたとできること」のページを開き、「賛助会員になる」の下「クレジットカードによるお申し込みはこちら」へお進みください。

※ 当会が入金の確認をもって手続き完了となります。メールにてお知らせいたします。



◆注意事項

- ・住所、氏名、メールアドレスに変更がある場合、振込名義がご本人でない場合は、下記の事務局までご連絡ください。
- ※ 期限を過ぎてからご入会される場合は、ホームページより新規の方法でお手続きください。

◆お問い合わせ先

日本事務局：[support@japanmaetao.org](mailto:support@japanmaetao.org)

ホームページアドレス：[www.japanmaetao.org](http://www.japanmaetao.org)



【メソト=田畑 彩生】

メソトマンスリー

## スタッフのゆめ

サンミントウンくん23歳。

カイン（カレン）州パアン州都出身の彼は、現在メータオ・クリニックの地域保健部門、学校保健課の責任者として頑張っています。

ポーカレン語、ビルマ語、英語を話します。ご両親、お婆ちやま共にパアンにご健在で、彼は2人兄弟のお兄さん。冗談大好き、お酒大好き、歌が大好き、サッカー大好きな青年です。お父さんが、パアン地区の学校で校長先生を勤めてられており、初等教育以降の学業を納める事にも理解が深く、積極的に高等教育へ進む事を両親に勧められたとの事でした。



5年前に、パアン地区にある高校を卒業後、医学を学ぼうと決意しタイ国境にあるメータオ・クリニックでの研修に参加。内科病棟での勤務の傍ら、学校保健部門をサポートする為に移民学校へ訪問。子供たちへの健康診断と健康教育をする事の意味深さを感じ、今年より地域保健部門へ勤務部署を変更しました。内科を中心に5年の臨床経験を経た彼は、どこへ行くときも鞆の中には聴診器と体温計が入っています。

2年前からパソコンを使い始めたとの事ですが、今では自由自在に操り、パワーポイントを使った発表や写真編集、映像作成はお手の物です。絵やデザインも驚く程上手に描きますが、「絵を描く事は好きだけれど、絵を通して表現している自分があまり好きではなくて、芸術を学ぶ道を選ばなかった。」そうです。

現在、大学にて学位を取得するため、故郷のパアン地域にある4年通信制大学へ通っています。ミャンマー国内では、学位取得の為に通信制大学の制度利用者は多く、職務と学位取得を両立している学生はたくさんいるとの事でした。彼も年に2ヶ月だけ大学へ通い学業、



学科試験を納めます。



いたとの事でした。

「先の事は全く分からないし、今後の明確な夢はまだありませんが、学校保健を充実させ、様々な部門や関係者との連携を深められる1年に出来たらと思う。学生の健診や教育、学校保健の担当教員の教育に力を入れて行きたいかな。」と話して下さいました。

タマサート大学の公衆衛生通信学部への奨学制度に合格出来れば、公衆衛生に関する学びも深めたいと学ぶ事への意欲は人一倍です。将来は、母国のミャンマーへ帰り、メータオ・クリニックでの経験を活かした職に就きたいと照れくさそうに話してくれました。

毎日の業務が終了すると飛ぶ様にしてクリニックのスタッフとサッカーへ繰り出すスポーツ大好き、若き学校保健のエース。

「彼女大募集中！」だそうです。



## 国内から

【タイ＝鈴木 みどり】

皆さん、こんにちは。去年から会員としてJAMの活動に参加させていただいている看護師の鈴木 みどりです。

今はタイのバンコクにあるマヒドン大学で公衆衛生を学んでいます。公衆衛生を学ぼうと思ったきっかけや、こちらでの生活や勉強していることについて少し説明させていただきます。

公衆衛生とは、環境衛生の改善など地域社会の努力を通じて、疾病を予防し、生命を延長





し、健康と人間的能率の増進をはかるための技術、とされていますが、日本ではほとんど意識せずに生活していました。子供の頃から当たり前のようにならざるを得ない情報やサービスが提供されていたので、特に日本で公衆衛生の問題を感じたことはありませんでした。



そんな私が公衆衛生について意識したきっかけは、国際災害看護の研修に参加したことでした。研修で、災害後の医療支援でもその地域の公衆衛生の問題を理解しないと適切な援助ができないと感じました。医療を通じて国際協力に関わってみたいという気持ちがあったので、青年海外協力隊に応募するかも考えたこともありましたが、まずは知識を増やしたいと思いました。JAM との出会いも留学しようという気持ちを後押ししてくれました。

マヒドンの公衆衛生には、主にアジアからの学生が多く、今年は、ミャンマー人18人、ネパール人7人、パキスタン人4人、日本人3人、他にモンゴル、モルディブ、ブータン、イタリア、ベルギーなど、タイも含めて11カ国から47人が集まっています。

大学のクラスメートの多くは、実際に公衆衛生に携わってきた経験があるので、それぞれの国の公衆衛生の問題から、今まさに必要性があって学んでいるという感じでとても積極的です。授業ではグループワークが多く、海外からの留学生は語学力が高く、雄弁で圧倒されることが多いですが、入学してから数ヶ月経って、それぞれの意見を尊重する雰囲気ができて、英語が苦手でも少しずつ意見を出し合うことができ助かっています。

大学の授業では現地の見学も時々あり、今回、一週間（12/16-12/22）の学習旅行に参加しました。タイの地方にある保健センター、小規模の公立病院、村のヘルスボランティアと在宅看護の様子を見学したり、インタビューするなどして、公衆衛生の状況について話し合いました。



私が訪問した地域についてですが、タイは田舎でも、公衆衛生活動が活発でしたが、高齢化が進んでおり、日中若者の姿を見かけることはなく、病院も人手不足で日本の田舎と共通の問題を抱えていると思いました。

一方で、特に印象的だったのは、地方の老人クラブを訪問したとき、皆さんが音楽とダンスと手作りの料理で私たち学生を暖かく歓迎してくれたことです。



タイでは地域の老人クラブの活動が盛んで、皆さんがいきいきと活動していたことでした。野菜や衣類など独自の商品を販売したり、健康に関する学習や運動の時間をつくっていました。各組織のネットワーク力が強く、情報を共有できていました。このような地域の様子を見ることができるのは、タイのマヒドン大学ならではのことでと思います。



